（未定稿）

第 13 回市立中学校のあり方検討委員会　会議録（概要）

1　日時　　令和５年 10 月 26 日（木）午後７時 00 分～午後８時 30 分
2　会場　　千手中央コミュニティセンター　千年の森ホール
3　出席者
（1）委　員　　21 名
（2）事務局　　７名　渡辺教育長、鈴木教育文化部長、玉村教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、山岸教育総務課長補佐、小野塚教育施設係長

4　会議概要
（1）　開会あいさつ（雲尾委員長）
（2）　議事
以下のとおり審議が行われた。

発言者	発言概要
① 検討委員会の会議日程及び内容等について（令和５年 10 月 26 日現在）	
事務局	（資料に基づき説明） （質問等なし）
② 提言案のとりまとめ（ワークショップ形式によるグループ討議）	

テーマ『30 年先を見据えた、10 年後の十日町市立中学校とは』
討議題①「子どもと学校　～学力向上、教職員体制、部活動、通学、いじめ・不登校、小中一貫教育、施設整備など～」
討議題②「地域と学校　～地域との連携、施設の活用など～」

（内容は別紙意見まとめのとおり）

（3）　その他
① 次回会議の開催日・内容について
日程調整表の提出を依頼。後日、次回日程をお知らせする。
② その他
なし
（4）　閉　会

グループ討議「30年後を見据えた、10年後の十日町市立中学校とは」　意見まとめ

R5.10.26　第13回市立中学校のあり方検討委員会

テーマ	分類	No	内容	班
子どもと学校	部活動	1	部活動の充実、専門コーチの配置	1
		2	クラブチーム化、専門コーチ等	1
		3	部活動は地域移行（職員の希望により）	1
		4	部活動で体力向上、スポーツが苦手な生徒も体を動かす遊びをする部を作る	1
		5	子どもたちが選べる部活動があると良い	3
		6	部活動は自由に選択できる数ほしい	3
		7	十日町市として各部を作り、自由な部活を選択できる	3
		8	種目も場所も学外でも部活を選択できる	3
		9	同じ部活の種目でも参加日等を選択できる	3
		10	部活と習い事を同レベルで扱う	3
		11	大会などを運営できる教員規模の確保	3
		12	部活動で力を発揮できる	4
		13	統合によりチームスポーツの充実	4
		14	他校と合同で選べる部活	4
		15	人数が今の６割程度になると部活は地域移行が進み、学校は学力と社会性を育てる場所となる	4
	新しい学校	16	施設整備・拠点となる学校を作る	1
		17	新校舎・十日町を中心に	1
		18	新校舎を希望する	1
		19	新築で２校に統合	1
		20	小中一貫校も検討	1
		21	すべてまとめて１校にする	2
		22	新しい場所へ新しい学校を作る	2
		23	学校同士の連携強化→その後の統合	2
		24	子どもの減少と先生が必要、早めの対策。10年先は統合が必要かも、しかも30年先は生徒数が300人割るかも、そこを考えたほうが	2
		25	学校が魅力的であること。通学したくなる学校	3
		26	全市一校	4
		27	市内一校	4
		28	新校舎設立	4
	多様な選択肢	29	子どもが学校を選ぶ	2
		30	学区がなくなる	2
		31	たくさんの選択肢がある	2
		32	公立や中等教育学校、高校付属など中学校を選択できる	3
		33	関心や習熟度に応じて授業を選択できる	3
		34	オンラインで他校の授業などを選択できる	3
		35	在宅と登校を選択できる（精神的な面や冬期間、通学）	3
		36	体調不良時などは近所の公民館や小学校でオンライン対応	3
		37	相談相手として教員を生徒が選択できる	3
		38	授業担当の教員を生徒が選択できる	3
		39	子どもたちはどう思っているだろうか	3
		40	学区撤廃、県内で特別な学校ができて選択できる	4
		41	「楽しい」「学校に行きたい」と思える生活を送れる	4

子どもと学校	教職員のあり方・育成	42	行事をさけて平日に休日日数の調整	1
		43	午前は休み、午後から出勤	1
		44	子どもたちに夢を与えられるような教員が多くいることを望む	3
		45	教師と生徒の良好な関係づくり	3
		46	どの科目も教員が複数人体制	3
		47	教員が授業内容を修正しながらブラッシュアップできるクラス数	3
		48	地域資源を継続的に教材化できる教員体制	3
		49	専門的な先生はインターネットを通して授業を行う	3
		50	魚沼枠採用の教員が育つ環境整備、仕組み	3
		51	統廃合時における特別支援学級の教員体制確保	3
	不登校の対応・対策	52	いじめ・不登校への配慮	1
		53	統合で余裕がでた職員でいじめ不登校対策の充実	1
		54	不登校の生徒用の教室担当の教員	1
		55	嫌な気持は伝えよう	1
		56	授業中の発言も勇気を持って言う	1
		57	教室登校している学校にとらわれない学習環境づくり	2
		58	不登校の子どもたちが過ごせる施設が多くあると良い	3
		59	学校に行きづらい子どもたちが安心してゆっくりできる施設	3
		60	不登校対策をどう進めるか	3
	通学	61	通学時間を平等に安全に	1
		62	登下校時間の遠近の時間配分	1
		63	通学はなるべく時間がかからないよう通学バスは細かく分ける	1
		64	家族の送迎が難しい場合はスクールバスを活用	1
		65	冬期通学を安全に	1
		66	通学は高校生の実態を調査して考える	1
		67	通学路の整備	3
	ＩＣＴ活用	68	ＧＩＧＡスクールを進めてほしい	1
		69	ＩＣＴを活用して他校と交流	1
		70	オンラインなどでつながる	2
		71	どの子もどこに住んでいる子も等しく学ぶことができる	2
		72	机上の授業はリモート、体感型授業や部活は集合	4
	小規模校	73	複式学級の在り方やメリットを生かす方法を考えたい※学年を越えて	2
		74	小規模校も	4
		75	幼保・小・中・公民館一体型による学校形成	4
		76	不登校の子どもたちの居場所	4
		77	お年寄りと子どもと	4
	地域	78	学ぶではなく体験経験の場	2
		79	学校にいる大人だけが先生じゃない	2
		80	学年学級は問わず（地域の人含め）集まれる場所	2
		81	子どもの居場所を多く確保する。学校も重要な一つ	3
		82	生まれた地域を大切に思える	4
	学力向上	83	学力向上のため理解力分けグループの学習日の実施	1
		84	教科担当は専門の教員	1
		85	全教科専門教員の指導	1
		86	地元の学校でも次に進めるレベル	4
	カリキュラム	87	高校受験がゴールではない教育カリキュラムの学校づくり	2
		88	生徒が興味を持ったことに対して学習の深堀ができるような体制づくり	2
		89	新しい教育の在り方の検討	2
		90	一点突破を目指す学校の形成	4
	設備・環境	91	安心安全な学校	3
		92	給食	3
		93	ジェンダーレスに対応した設備	3
		94	エアコン設備のある体育施設があると良い	3
	小中一貫教育	95	小中一貫教育の具体的な取組を作り上げる	1
		96	小中一貫教育の継続	3

地域と学校	施設の活用	97	地域と学校（生徒）との学びの場作り	1
		98	カウンセラーや傾聴者が待機している下校後の遊び場、地域の人の参加	1
		99	長期休日の居場所	1
		100	文化系部活動の場	1
		101	児童生徒用映画上映	1
		102	統合で使わなくなった学校の体育館を使用できるように	1
		103	古い公民館に代わって使用	1
		104	立地のよい学校に企業誘致（水沢地区、吉田地区等）	1
		105	廃校した施設利用	3
		106	地域の施設としての共用	3
		107	校舎や体育館など交流の場に（年代問わず）	3
		108	市役所機能、公民館機能を含めた複合型施設	3
		109	少子高齢、情報技術に対応した施設使用	3
		110	放課後や夜の教室活用を民間含めて使用できる施設使用	3
		111	学童保育的な場所として	3
		112	学校に住民が寄れる（集まれる）	4
		113	学校の中に地域の方のたまり場を（コミュニティルーム）	4
		114	コミュニティの場	4
		115	保・小・中・老人会の集える場所	4
	歴史・文化・伝統	116	伝統を残す	1
		117	地域の歴史を学ぶ時間があるといい	2
		118	地域の人を学ぶ場	2
		119	地域の文化伝統をどこかで生かす、大切にする	2
		120	地域の文化を学び発信できるような取組ができれば	3
		121	地域の歴史や伝統を学べる、地域の人の授業	3
		122	起業家・地域課題解決人材の育成のため、小学生から高校生以降までの系統的プログラムをサポートする行政・企業・地域・個人などによる交流推進組織が必要	3
		123	それぞれの地域の良さを知る（人のあたたかさとか仕事とか）	4
		124	地域の自然や宝を理解する教育	4
		125	歴史の継承	4
		126	総合学習の講師が地域住民	4
		127	地域の産業に学ぶ（地域で生きる）	4
		128	会社見学	4
		129	地産地消の取組	4
		130	共に「人づくり」を目指す	4
	連携・協同	131	学校と地域民との関わり・行事を作る	1
		132	地域の主体性・活力を上げる	2
		133	地域の人が集まる場所	2
		134	子どもも地域の一員	2
		135	子どもたちが地域に出て学べる	3
		136	地域と学校の合同行事	3
		137	祭りを地域と協同で取り組めるようになると良い	3
		138	祭りなどの行事、興味のあるイベントに柔軟に参加ができる教育態勢	3
		139	公民館（コミセン）と連携した活動	3
		140	居住地区以外のイベントや企業イベントなどへの参加を容認促進できる態勢	3
		141	コミュニティスクールは継続	3
		142	地域の人との関わり、小さい子からお年寄りまで	4
		143	地域の人と文化祭等	4

地域と学校	人材活用・学び	144	地域を学び、ふる里愛を高める（先生は地元）	2
		145	学校で教えられないことは地域住民が教師となって教えられる体制づくりを行う	2
		146	地域と関わりの中で、子ども自身のあり方が分かってくればよい	2
		147	学校（子ども）中心で成り立つが良い	2
		148	住んでいる場所以外の地域の行事へ参加したりボランティアなど行う	2
		149	地域の人がいつでも先生（地域の人にとってもはりあい）	3
		150	地域の教育力を生かして、地域の先生	3
		151	子どもたちや教員のチャレンジに対して寛容的にサポートする雰囲気の醸成	3
		152	退職された先生による特別授業	3
		153	十日町の会社や職業を学べる機会（オンラインで興味のある企業へ）	3
		154	住民が授業の一部に参画できる学校	4
		155	地域との関わりを授業としてだけでなく自由度を持たせる	4
		156	地域に出る学校、地域から入る学校	4
	部活動	157	部活動は地域にあるサークルで一緒に活動、幅広いつながり	3
		158	地域クラブが活用できるような施設が多くあると良い	3
		159	従来の部活の支援	3
	根幹	160	統廃合ではなく新設が必要	3
		161	30年後の姿に相応しい学校数を10年後に実現する	3
		162	教員の業務量を削減するための仕組みづくり	3
	課題	163	行政が柔軟性を持ちつつ、きちんと支出できる態勢確立	3
		164	学校が少なくなった場合、学校運営の多様性を確保する工夫（学校長や教育委員会の機能や関係性が現状のままでよいのだろうか）	3
		165	行政も地域も、中学校が小学校から高校生以降をつなぐという視点で主体的な計画づくりと実践を	3
	保護者	166	統合前に各地域の要望をよく聞き整理	1
		167	保護者どおしのつながり	1
	誇り	168	十日町市「児童生徒の歌」（仮称）を決めて、すべての小学校中学校で歌う	3
		169	新しい学校になったら市民がすごいねと言える学校	4

【１班】

テーマ	分類	内容
子どもと学校	学校整備	施設整備・拠点となる学校を作る
		新校舎・十日町を中心に
		新校舎を希望する
		新築で２校に統合
		小中一貫校も検討
	通学	通学時間を平等に安全に
		登下校時間の遠近の時間配分
		通学はなるべく時間がかからないよう通学バスは細かく分ける
		家族の送迎が難しい場合はスクールバスを活用
		冬期通学を安全に
		通学は高校生の実態を調査して考える
	不登校対策	いじめ・不登校への配慮
		統合で余裕がでた職員でいじめ不登校対策の充実
		不登校の生徒用の教室担当の教員
		嫌な気持は伝えよう
		授業中の発言も勇気を持って言う
	部活動	部活動の充実、専門コーチの配置
		クラブチーム化、専門コーチ等
		部活動は地域移行（職員の希望により）
		部活動で体力向上、スポーツが苦手な生徒も体を動かす遊びをする部を作る
	学力向上	学力向上のため理解力分けグループの学習日の実施
		教科担当は専門の教員
		全教科専門教員の指導
	ＩＣＴ活用	ＧＩＧＡスクールを進めてほしい
		ＩＣＴを活用して他校と交流
	教職員の休日	行事をさけて平日に休日日数の調整
		午前は休み、午後から出勤
	小中一貫教育	小中一貫教育の具体的な取組を作り上げる
地域と学校	閉校施設の活用	地域と学校（生徒）との学びの場作り
		カウンセラーや傾聴者が待機している下校後の遊び場、地域の人の参加
		長期休日の居場所
		文化系部活動の場
		児童生徒用映画上映
		統合で使わなくなった学校の体育館を使用できるように
		古い公民館に代わって使用
		立地のよい学校に企業誘致（水沢地区、吉田地区等）
	地域・保護者	統合前に各地域の要望をよく聞き整理
		学校と地域民との関わり・行事を作る
		伝統を残す
		保護者どおしのつながり

【２班】

テーマ	分類	内容
子どもと学校	新しい学校 ～どこで学ぶか～	すべてまとめて１校にする
		新しい場所へ新しい学校を作る
		学校同士の連携強化→その後の統合
		子どもの減少と先生が必要、早めの対策。10年先は統合が必要かも、しかも30年先は生徒数が300人割るかも、そこを考えたほうが
		子どもが学校を選ぶ
		学区がなくなる
		たくさんの選択肢がある
		教室登校している学校にとらわれない学習環境づくり
		オンラインなどでつながる
		どの子もどこに住んでいる子も等しく学ぶことができる
	新しい学校 ～どのように学ぶか～	高校受験がゴールではない教育カリキュラムの学校づくり
		生徒が興味を持ったことに対して学習の深堀ができるような体制づくり
		新しい教育の在り方の検討
		学ぶではなく体験経験の場
		学校にいる大人だけが先生じゃない
		学年学級は問わず（地域の人含め）集まれる場所
		複式学級の在り方やメリットを生かす方法を考えたい※学年を越えて
地域と学校	新しい学校 ～誰と学ぶか～	地域の歴史を学ぶ時間があるといい
		地域の人を学ぶ場
		地域の文化伝統をどこかで生かす、大切にする
		地域の主体性・活力を上げる
		地域の人が集まる場所
		子どもも地域の一員
	新しい学校 ～何を学ぶか～	地域を学び、ふる里愛を高める（先生は地元）
		学校で教えられないことは地域住民が教師となって教えられる体制づくりを行う
		地域と関わりの中で、子ども自身のあり方が分かってくればよい
		学校（子ども）中心で成り立つが良い
		住んでいる場所以外の地域の行事へ参加したりボランティアなど行う

【３班】

テーマ	分類	内容
子どもと学校	根幹となるもの	学校が魅力的であること。通学したくなる学校
		子どもの居場所を多く確保する。学校も重要な一つ
		統廃合時における特別支援学級の教員体制確保
		小中一貫教育の継続
		子どもたちはどう思っているだろうか
	多様な選択肢	公立や中等教育学校、高校付属など中学校を選択できる
		関心や習熟度に応じて授業を選択できる
		オンラインで他校の授業などを選択できる
		在宅と登校を選択できる（精神的な面や冬期間、通学）
		体調不良時などは近所の公民館や小学校でオンライン対応
		相談相手として教員を生徒が選択できる
		授業担当の教員を生徒が選択できる
	部活動	子どもたちが選べる部活動があると良い
		部活動は自由に選択できる数ほしい
		十日町市として各部を作り、自由な部活を選択できる
		種目も場所も学外でも部活を選択できる
		同じ部活の種目でも参加日等を選択できる
		部活と習い事を同レベルで扱う
		大会などを運営できる教員規模の確保
	教員のあり方・育成	子どもたちに夢を与えられるような教員が多くいることを望む
		教師と生徒の良好な関係づくり
		どの科目も教員が複数人体制
		教員が授業内容を修正しながらブラッシュアップできるクラス数
		地域資源を継続的に教材化できる教員体制
		専門的な先生はインターネットを通して授業を行う
		魚沼枠採用の教員が育つ環境整備、仕組み
	環境整備	安心安全な学校
		通学路の整備
		給食
		ジェンダーレスに対応した設備
		エアコン設備のある体育施設があると良い
	不登校対応	不登校の子どもたちが過ごせる施設が多くあると良い
		学校に行きづらい子どもたちが安心してゆっくりできる施設
		不登校対策をどう進めるか

地域と学校	根幹となるもの	統廃合ではなく新設が必要
		30年後の姿に相応しい学校数を10年後に実現する
		教員の業務量を削減するための仕組みづくり
		コミュニティスクールは継続
	施設設備	廃校した施設利用
		地域の施設としての共用
		校舎や体育館など交流の場に（年代問わず）
		市役所機能、公民館機能を含めた複合型施設
		少子高齢、情報技術に対応した施設使用
		放課後や夜の教室活用を民間含めて使用できる施設使用
		学童保育的な場所として
	地域連携	子どもたちが地域に出て学べる
		地域と学校の合同行事
		祭りを地域と協同で取り組めるようになると良い
		祭りなどの行事、興味のあるイベントに柔軟に参加ができる教育態勢
		公民館（コミセン）と連携した活動
		居住地区以外のイベントや企業イベントなどへの参加を容認促進できる態勢
	地域人材	地域の人がいつでも先生（地域の人にとってもはりあい）
		地域の教育力を生かして、地域の先生
		子どもたちや教員のチャレンジに対して寛容的にサポートする雰囲気の醸成
		退職された先生による特別授業
		十日町の会社や職業を学べる機会（オンラインで興味のある企業へ）
	地域の文化活用	地域の文化を学び発信できるような取組ができれば
		地域の歴史や伝統を学べる、地域の人の授業
		起業家・地域課題解決人材の育成のため、小学生から高校生以降までの系統的プログラムをサポートする行政・企業・地域・個人などによる交流推進組織が必要
	部活動（課外）	部活動は地域にあるサークルで一緒に活動、幅広いつながり
		地域クラブが活用できるような施設が多くあると良い
		従来の部活の支援
	課題、行政レベル	行政が柔軟性を持ちつつ、きちんと支出できる態勢確立
		学校が少なくなった場合、学校運営の多様性を確保する工夫（学校長や教育委員会の機能や関係性が現状のままでよいのだろうか）
		行政も地域も、中学校が小学校から高校生以降をつなぐという視点で主体的な計画づくりと実践を
	愛唱歌	十日町市「児童生徒の歌」（仮称）を決めて、すべての小学校中学校で歌う

【４班】

テーマ	分類	内容
子どもと学校	全市一校	全市一校
		市内一校
		新校舎設立
	小規模校も必要	小規模校も
		幼保・小・中・公民館一体型による学校形成
		不登校の子どもたちの居場所
		お年寄りと子どもと
	部活動の充実	部活動で力を発揮できる
		統合によりチームスポーツの充実
		他校と合同で選べる部活
		人数が今の6割程度になると部活は地域移行が進み、学校は学力と社会性を育てる場所となる
	行きたい学校を選択	学区撤廃、県内で特別な学校ができて選択できる
		「楽しい」「学校に行きたい」と思える生活を送れる
	地元を大切に	生まれた地域を大切に思える
		地元の学校でも次に進めるレベル
	リモート授業と体感型授業	机上の授業はリモート、体感型授業や部活は集合
	一点突破型	一点突破を目指す学校の形成
地域と学校	地域が集える場	学校に住民が寄れる（集まれる）
		学校の中に地域の方のたまり場を（コミュニティルーム）
		コミュニティの場
		保・小・中・老人会の集える場所
		地域の人との関わり、小さい子からお年寄りまで
		地域の人と文化祭等
		住民が授業の一部に参画できる学校
		地域との関わりを授業としてだけでなく自由度を持たせる
		地域に出る学校、地域から入る学校
	地域の良さを知る	それぞれの地域の良さを知る（人のあたたかさとか仕事とか）
		地域の自然や宝を理解する教育
		歴史の継承
		総合学習の講師が地域住民
		地域の産業に学ぶ（地域で生きる）
		会社見学
		地産地消の取組
		共に「人づくり」を目指す
	市民の誇り	新しい学校になったら市民がすごいねと言える学校